

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273400307		
法人名	有限会社 憩		
事業所名	グループホーム憩 既存棟		
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1708番地1		
自己評価作成日	令和5年 11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設周辺は、緑豊かでのどかな田園風景に囲まれており、車の往来も少なく安全が確保しやすい施設内庭～周辺が毎日の散歩コースになっております。畑仕事をしているなじみの近所の方々と挨拶を交わしたり、短い会話を交わすなどの気軽なふれ合いがあります。昔ながらのどかで心とらく近所付き合いが残っております。又、食事作りでは、利用者さんの希望を取り入れ、バランスの良い食事作りを心がけております。適度な活動や日光浴・自家製米・野菜等を取り入れた食生活で健康を維持して行く事をねらいにしております。ご家族や外部の方々、ボランティアさんなどが、気軽に何時でもおいでいただける雰囲気作りを常に心がけており、ご家族が心身の状態を常に把握できるように連絡を密にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり、楽しく、一緒に」を理念に掲げ、利用者と過ごす時間を大切にしている。ボランティアが毎週訪問し、歌、体操、クイズなどで利用者を楽しませてくれている。また、地域のお祭りで、こども神輿がホームの前で踊りを披露してくれるなど、地域との関係性が良好なホームである。法人代表が所有する畑で収穫した野菜、米を使用して、季節感を楽しめるような食事を職員が調理して提供している。レクリエーションの一環で、毎日午後の時間を、体操、手先を使うちぎり絵、塗り絵の時間にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり、楽しく、一緒に」を理念に、落ち着いたゆっくりとした時間を過ごせるようにスタッフもコミュニケーションをとるようにしております。家族との繋がりも大切にして働き掛けをしております。時々近所を散歩しながら、短い挨拶や言葉を交わしてなじみの関係を作っております。	「ゆったり、楽しく、一緒に」の理念を、事務所の入口、リビングに掲示している。日常のケアの中で、利用者やゆっくりと過ごす時間を大切にすることを職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して近所の方々と言葉を交わす場面がありますので、なじみの関係作りになっております。敬老会には毎年参加しており、近所の方と会って会話する場面もあり、交流する機会になっております。	自治会に加入し、回覧板で地域の行事を把握することができる。お祭りでは、こども神輿がホームの庭で踊りを披露してくれた。ホームの周辺を散歩する時は、近隣住民から声がかかることもあり、挨拶している。また、地域の敬老会に招待されて、利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症が増えてきている現状が反映された現象が電話で認知症を抱えている方の相談や見学を希望が増えてきている。認知症を抱えている方の実像を理解してもらいたく、グランドゴルフや認知症カフェ等に積極的に参加してきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月置きに開催し、年6回行う中で常に施設内利用者の変化を伝え、そこでの意見を介護で実践できるように取り組んでいる。より多方面からの参加を頂き、意見をケアの中に取り入れていけるように取り組んでいる。	市職員、家族代表、区長、地域ボランティア、ホーム職員が参加し、年6回、運営推進会議を開催している。活発な意見交換がおこなわれている。	利用者の代表が出席しているが、他の家族にも開催日や議題を知らせて意見をもらったり、議事録を全家族に送付してもよいと思われる。また、ホームが社会資源として貢献できる事などの検討も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の高齢者担当職員の参加を頂き利用者の心身の状態を報告している。意見を聞いたり、提案なども受け止めてもらって連携を図っている。毎月市の相談員が来所して、個人、個人の利用者の意見を聞いてくれ、施設に反映されている。	市の担当者より、運営推進会議で助言をもらっている。介護相談員の訪問も毎月受け入れている。市からボランティア受け入れの問い合わせもあり、担当課とは良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束に該当する方は居りませんが、身体拘束は、有ってはならない現象として捉えていかななくてはならないこと。やむを得ず行う身体拘束もよく検討した上で最低限度の期間で検討し中止の方向を図っていく。	身体拘束適正化のための指針がある。委員会を設置しており、3か月に1回開催して議事録を作成している。身体拘束の事例を基に職員研修もおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修を通して、虐待についても絶対してはならない意識を持って日々のケアに努めております。入浴時や更衣介助の際に身体の外傷がないか確認をし、意識を高めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の方には成年後見制度を利用されている方がおります。毎年増えてきており、親族の方が後見人になっている方やそれ以外の方など定期的に面会に来られており、施設の連携や本人との定期的面識を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書を元に説明を行い疑問に答えています。利用者への介護内容などその都度その都度家族へ相談し、納得を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の方へは運営推進会議活用してお伝えしております。家族には毎月お便りをお渡しして心身の状態をお伝えしておりますので、面会や外出時に意見などを伺っております。ケアプランの見直しの際は直接伺ったりしてケアに反映させております。などで意見を聞き、話を聞くようにしております。	家族からは面会来訪時に意見を聞いている。家族内で看取りについての意見の違があるとの相談などもあり、直接面会してホームでの看取りについて説明した事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別時間は設けてはいないが、代表や管理者はスタッフの要望や意見を聞き取る機会が日常的にあります。利用者に関しても、設備的な事も意見が反映されることは多々あります。	日常的に、職員の意見、提案を聞いている。職員からの提案で、玄関のスロープや立ち上がる時に使用する手すりを設置した。	今後は、処遇改善加算に対応した個別の計画的人材育成を検討することも期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『施設で働く人が一体となり経営の健全化と満足感のある職場を目指す』を基本方針に職員が日々安定した生活が送れる様努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県保健福祉部・千葉県社会福祉協議会・全国GH協会・介護労働安定センター・君津健康福祉センター・袖ヶ浦市地域包括支援センター等の研修に常勤・非常勤問わずに各自の立場・経験に見合った研修を受講させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着・小規模ケア推進協議会・全国認知症グループホーム協会・袖ヶ浦市社会福祉協議会に加入し、他事業所との交流を深められる場面があれば、積極的に参加出来る様に配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活や既往歴を知り、今何を求めているかを普段の生活や言動から探り関係を築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際にも家族の意向を踏まえサービスを考えます。面会に来た際にも日頃の様子を伝えながら家族の話も聞きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、家族の要望を聞き対応しておりますが、方向性の決まっていない相談者の場合にはサービスを利用しながら対処して行く事を進めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶や食事を一緒に摂り、家族の一人として接しています。困ったことや疑問があった時なども話を聞いて一緒に解決するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月心身の状態や往診時の内容を含めて写真入りで送付しております。利用者へのケアについてお伝えし、何か問題が見られた時などは家族に確認を取りながらケアして良い関係づくりを行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人本人の使っていた家具なども使い、昔なじみの物事を感じられればと思います。また、以前の住んでいる場所に行ってきたり、近所の方が訪問された際にはゆっくり過ごしていただけるよう雰囲気づくりを行っております。	面会是对面でも可能としている。友人や、知人の訪問もある。また、手紙の受け渡しや、電話の取次ぎの支援をしている。家族の希望で外泊や外出をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに見知らぬ同士ですが、同じ地区に住んでいたことでつながりの会話ができたり、それぞれが思い出話しても同じ世代に共通の話題がみられつながりを感じて、孤立感の解消になっております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、該当者はいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本来、各個人で過ごす時間は、マイペースを尊重しております。食事やその他のお手伝い、レクリエーションへの参加も各自の能力に応じて行い、個性・積極性を尊重しております。	入居時に利用者・家族から情報収集し、思いや暮らし方の意向をフェイスシート、アセスメントシートにまとめている。笑顔を大切にしており、笑って暮らせるよう、気持ちの汲み取りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やかかわりのある人から、今に至るまでの経緯を聞き、又本人との会話から暮らしの様子を探ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子から変化がないか、身体能力を見て、ご自分で出来る事をして頂くよ関わっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、利用者に対しての課題を話し合い必要であれば3者で話し合いを行い、日常のケアと病院など連携を取り計画を立てております。	計画作成担当者が毎月モニタリングし、職員にケアの指示書を渡している。計画更新の際は家族向けケアプラン説明会を実施する。欠席の家族には書面で意見を聴いている。医師・看護師の意見も取り入れている。	職員意見の集約や情報共有は、申し送りを中心である。全員に伝わっていることが確認できるようサインや印を残すことも促される。また、職員会議の開催も望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施表、普段の様子などを記録した物などで情報を共有し、スタッフ間で話し合いをします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間医療連携体制により、入居者の健康を維持出来る様な柔軟な対応をしている。隣接している訪問介護職員の介護技術をアドバイスして頂く事もある。さらに多機能を生かす取り組みとして現在「共用型」通所介護の開設予定です。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティアセンターを通じてお手伝いを頂いたり、市政防災課にSOSネットワークが構築されており、行方不明等警察に連携が取れるようになっていきます。消防署とは避難訓練・救命講習等ご指導を頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医から、風邪薬等の処方を受け、往診を受けますが、すでに主治医にかかりつけなど、その方に応じて医療を受けて頂いております。	週1回、非常勤の看護師が利用者の健康状態を確認し、職員にケアの助言をしている。看護師には24時間連絡することができる。このほか、月2回、訪問診療医が訪れ、利用者の診察をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体や医療機関受診等の情報を知らせその場でスタッフが出来る事に関して指示を仰ぎます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、家族と経過を見ながら病院関係者と情報交換し、家族の希望や医師との話し合いを持って安心して入院して頂ける様にしております。退院においても、なるべく早く退院出来る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さんの心身の状態は毎月のお知らせを写真も同封しながらお伝えしております。状態の悪化や介護の範囲を超える状態に近づいた際には家族の意向を確認し、終末の場合はサインを頂いております。	医療行為が発生しない、自然な看取りに対応している。ここ最近は見取りのニーズがなく、病院で最期を迎えるケースが多い。看取りの指針、重度化したときの対応指針があり、入居時やターミナル時に説明して家族にサインをもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナが発症蔓延してからの集団の研修は行っておりませんが、それまでは定期的に参加対応しておりました現在の救急時の対応は初期対応が指示されますので、対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と伝えて、利用者さんに避難の意識を持って頂きたいと訓練日を増やしております。日頃の散歩の機会が防災訓練の一つになっていると思います。消防計画書を元に毎日の設備点検と自主的に避難訓練を行って行く計画を立てております。	火災、水害等を想定した避難訓練をおこなっている。隣接する新棟と共通の防災マニュアルを作成しており、消防団との連携も図っている。食料ほか災害時の備蓄品も準備している。事業継続計画(BCP)は作成中である。	事業継続計画(BCP)の完成が促される。防災マニュアル、BCPは職員間でしっかり共有し、訓練に取り入れることが必要である。備蓄品は一覧表やチェック表を作る事が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、1人1人が全く別の人格を持った方が年齢や育った環境が違う集団の中で過ごされるのです。今まで生きて来られた生活歴や性格面に配慮した声掛けや関わりを持つようにし、なるべく訴えには受容を心がけるようにしております。	利用者が笑顔で過ごせるような対応を心がけている。時には利用者のことを敢えて〇〇ちゃんと呼び、関係づくりをしている。多彩なレクリエーションがあり、個性を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所された際には、慣れて生活されるまでの混乱が生じて、いろいろ聞いてこられますので、その都度内容をお聞きして答えるようにしております。落ち着いた生活経過を過ごしている方にも認知症の進行で自己決定の曖昧になっている方も促しを行うようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で行動する場面のドライブ外出、近所への日光浴を兼ねた散歩外出等どうしても集団の行動を優先しながら、限られた人員の中で個人の要望は受け入れていくようにしております。又、家族の支援も繋がり的手段と捉えております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみが基本になります。汚れたものを身につけていないかを日々確認しております。若いときはおしゃれに関心が強かった方はその気持ちが残存して居りますので、ご自身の気持ちに添うようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所される方によっても違いますが、メニュー等時々食べたいおかずなどを聞いて参考にしております。食事はバランス、新しい食事内容、喜んで食べて頂いているかを見守り、後片付けなどのお手伝いに参加を促しております。	昼・夜は調理専門の職員がおり、当ホームや隣接の新棟の調理を担っている。法人代表が畑で取れた自家製野菜・米などを随時に提供している。行事食、出前なども取り入れており、バラエティ豊かな献立となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全量摂取して頂ける事を目標にし、それが健康維持の指針になる考えを基本とします。食事の減少の際には身体の変化を知られてくれます。食事以外は水分の摂取がとても重要ポイントになりますので、1日1000ccを目標にして支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まず、入所されて来る方の口腔内の状態を確認しております。口臭がある場合は、菌垢が原因と考え、ご家族に相談しながら改善の方向を取っております。自力で口腔ケアが出来る方と介助が必要な方に分けて見守りや1部介助で支援を行っております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でトイレ誘導を行っているが、その方の日常の動作を観察し排泄パターンを探ります。	健康管理システムを取り入れ、タブレット端末から排泄の記録をしている。これにより排泄状況がより一層把握しやすくなり、適切なタイミングでトイレ誘導をしたり、弄便の予防などにつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便のコントロールをケアの重要な課題と捉えております。食事と水分のバランスに気を付けております食事は家庭的で作る内容ですが、暖かい物は暖かい内に食べて頂く配慮や自家の野菜を取り入れた新鮮な食品を取り込む配慮をしておりますが、排便困難者には薬のコントロールを行ってます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	限られた人員の中で、計画しております入浴は、週2回を原則にし、ゆっくり入って良かった感想を目標にしておりますが、その他に清潔保持の面で、失便、漏便などにも瞬時対応にもシャワー浴対応を行っております。	温度管理に気を配り、湯温を低めにし、ヒートショック予防で脱衣場や廊下の温度にも注意している。一人の時間を大切にしており、湯船にゆっくり浸かってもらっている。介護度の重い人も職員二人体制で湯船に入ってもらえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体内リズムが働く様にカーテンからの光を浴びて頂く配慮を行ったり、午後は毎日、体を使った運動をレクリエーションに入れたり、午睡タイムをもうけて身体の休息時間を設定しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬一覧表を常に確認できる状態で、服薬の変更があれば、申し送り服薬中の様子を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、外食、カラオケ、すべてではありませんが、一人ひとり楽しいと思ってもらえる働きかけをしていきたいと思っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物やドライブ等に対応をこなしておりますが、今回のコロナウイルスによる外出制限でご自宅に時々戻られ近所の方とお会いしたり近くのコンビニへの気晴らしに買い物をして 時間を自由に使うから職員が迎えにいく事もできてました。	周囲は自然あふれる環境であり、散歩は日々おこなっている。個別の希望に応じ、車で図書館や畑の直売所にも出かけている。春のお花見や正月の初詣では、可能な限り皆で行けるようサポートしている。家族との外出・外泊もある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使って買い物が出来ていた方がその後入所されていた方とお金は家族が管理して一切の買い物をされていない方によって、支援を変えております。生活の継続が大切と考えております。しかし使えるお金による物とられ妄想も生じる場面も多く見られてます。その方よっての支援に配慮しております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限はありませんが、明らかに自分で対応できない方については、スタッフが中に入り、対応しております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全般に清潔な住まいであることを基本としています。又、高齢になり視力や判断の低下も生じてきますのでよく見える空間は重要な要素になって居りますので、夜間も自室以外は光が灯っている状態が肝要と考えております。温度管理の重要性、臭いなど考慮した住まい。壁などに季節感の配慮考えております。	共用部の清掃は職員メインでおこなうが、玄関は利用者にも声かけして手伝ってもらっている。室温に気を配り、廊下も温めるなどヒートショックを予防している。また明るさにも注意しており、夜間に真っ暗になる場所が無いよう、廊下、リビングは常に明かりを点けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の空間が今までの住まいと大きく掛け離れない住まい作りが良いことと考えております。御家族にもその都度必要と思われた物を持ってきて頂く働き掛けも行っております。利用者同士の行き来をしたりする姿も見られてます。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家にあったのものを継続して使用して頂くのを基本としております。本人から必要だと要望のあったものに関して、家族に購入をお願いするか代行で買って来て使用して頂いております。	居室には馴染みの品や小さな仏壇などを持ち込み、それぞれ自分らしい落ち着ける部屋となっている。ホームは木目調で全体的に温かみがある。1ユニットであり、職員の間も行き届いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活するための基本は、転倒のリスクを取り除いているか、つまずきがない生活を送っているか、落下に関しても危害が及ばないかなどあらゆる点検をした上で室内室外での自立を妨げることのない環境設定に目配りしております。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと